

# 国立大学法人徳島大学の平成 18 年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

徳島大学は、理系中心の大学として、世界に通用する研究教育大学を目指しており、特色ある研究成果と教育は、地域・産業界でも注目されているところである。

年度当初において、学長自ら重点的な方針を策定し、各理事にその実行を指示するなど、学長のリーダーシップが発揮されている。特に、外部資金の獲得の増加に向けた取組、積極的・計画的な経費節減、さらには評価に対して前向きに取り組むなど、中期目標・中期計画の達成に向け、計画を順調に実施しているといえる。中期目標・中期計画の実行を補完する「徳島大学基本構想及び第一期基本計画」の策定も、目標管理の充実にに向けた取組として評価できる。

この他、人事評価については、教員の業績評価を実施し平成 19 年度に処遇に反映させることとしている。事務職員についても人事考課制度を、平成 19 年度からの導入に向けて試行している。今後、この制度が教職員の信頼の上に成り立ち、活力ある人事処遇制度に発展することが期待される。

また、認証評価機関による認証評価を受けていることは、なお多くの大学が申請に向けた準備を行っている中で早期に取り組み、教育の質の向上をさらに図ろうとする姿勢は高く評価できる。

教育研究の質の向上については、「学生が選んだ優れた授業」を公表した上で、教員等による授業参観が実施されている。また、教育方法の改善に注力し、結果として、文部科学省の大学教育改革支援事業に全学部が採用されるなどの成果を得ている。

## 2 項目別評価

### ・業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化

運営体制の改善

教育研究組織の見直し

人事の適正化

事務等の効率化・合理化

平成 18 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

教員の授業等を一定期間免除し自由に研究に専念させるサバティカル制度が導入されている。公募により 2 名を採択し、平成 19 年度から実際のサバティカル活動が行われることとなっており、活動支援経費（50 万円）も措置することとしている。

企画立案機能を充実するため、事務局に企画・評価課が、附属病院に経営企画課が設置されている。企画・評価課では、大学機関別認証評価の受審、組織評価の本格実施、評価情報分析センターの運営体制の確立等が行われ、経営企画課では、新規事業等増収対策の策定、達成分に係る達成後の効果の自己評価等が行われている。

学長裁量ポストは、20名分を確保し、毎年、教員の業績を確認しつつ運用しており、今後4年間でポストを倍増させることとしている。

大型競争的研究資金の獲得を目的として編成された組織を育成・支援するため、学長による事業計画書及び成果のヒアリングを実施し、評価に基づき、パイロット事業支援として新規10件、継続5件を選定し、重点的に支援経費が配分されている。大学改革推進等補助金や科学研究費補助金等の多数の外部資金獲得に結びついている。

2年間の時限付きで設置した「業務改善推進係」が中心となって実施する「業務改善提案制度」については、応募のあった21件について調査・検討し、追録書籍の集中管理導入による業務負担軽減及び謝金支出額の削減外1件が実施されている。また、各事務部等で独自に取り組んだ改善事例115件をウェブサイトで公表し、業務改善への参考、意識改革及び経営参画意識の高揚を促している。

理事（管理担当、経営担当）監事、監査室、会計監査人による四者協議会は、年2回開催され、会計監査人による監査内容及び監査結果についての報告・意見交換を行い、監査結果を大学運営に反映させるための体制が整備されている。

監事による役員会、経営協議会、教育研究評議会の開催状況、審議事項、審議方法についての点検評価が行われている。なお、監事の指摘事項に対しては、以下のとおり対応している。

- ・ 役員会については、担当課から各役員に事前説明を行い共通理解を得ることを原則とするほか、十分議論できなかった重要事項については、別途日時を設け、各役員及び関係教職員で懇談会を実施している。
- ・ 経営協議会については、事前に次回のテーマを示し、自由討議の時間を設定するなど、大学運営上の課題について意見を聴く機会を設けている。
- ・ 教育研究評議会については、各部局の意見が必要となるもの等については、事前に部局長会議で意見を聴取するか、部局に持ち帰り意見を集約するなど、審議方法を工夫し、所要時間も短縮している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載38事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## （2）財務内容の改善

外部研究資金その他の自己収入の増加  
経費の抑制  
資産の運用管理の改善

平成18年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

自己収入増を図るため、資産の貸付範囲の見直しを行うとともに、学外者等からの

貸付依頼を促進するため、講堂等の施設利用案内を徳島県及び大学のウェブサイトに掲載し周知されている。附属病院では、患者サービスの向上を図るため、貸付施設の見直しが行われたこともあり、大学全体での貸付料は約 3,300 万円（対前年度比約 200 万円増）となっている。

一般管理経費の主要節減項目について、対前年度比 1.3 %減の削減目標を設定し努力した結果、約 7,200 万円（対前年度比 3.8 %減）の節減が図られている。また、電子複写機賃貸借契約を一般競争入札に切り替え、約 700 万円の節減が図られている。これらにより、一般管理費比率は、2.7 %（対前年度比 1.2 %減）となっている。

大学と附属病院を有する国立大学（単科大学を除く）31 大学の財務比率の平均値とを対比させながら、財務上の課題の分析・検討が行われている。

競争的資金に係る間接経費を学長裁量経費として確保し、インセンティブ経費として配分することにより、研究の活性化及び経費の効率的な使用が行われている。なお、今後、更なる競争的資金の獲得が期待される。

中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### （3）自己点検・評価及び情報提供

評価の充実

情報公開等の推進

平成 18 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

認証評価機関による認証評価を受け、評価基準を満たすとの評価を得ている。なお、「大学院の入学定員超過率が高い状況にある」、「施設のバリアフリー化が不十分」との評価結果を踏まえ、改善に向けて取り組んでいる。

年度計画の達成状況を把握する目的で中間評価が実施されている。各部局に対し、中期計画に対する進捗状況を「進捗率」として提出させ、これを基にヒアリングを実施し、中期計画の執行状況の把握、平成 19 年度以降の年度計画の進行管理及び中期計画推進のためのアドバイス等が行われている。

全教員対象の業績評価を試行し、教員業績評価システムが導入されている。業績評価に基づく処遇については、平成 19 年度の賞与に反映されることとされている。

事務職員の人材育成や評価結果の処遇への適切な反映を目的とした、目標管理を取り入れた人事考課制度を導入するため、係長以上の職員を対象に評価者研修及び試行評価を実施し、制度案が策定されている。

学生、卒業（修了）生、雇用主に対するアンケート結果を総合的に分析した報告書に基づき、教育改善計画（平成 19 年度から実施）が作成されている。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

（理由）年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、認証評価の実施に関して先進的な取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

#### （４）その他業務運営に関する重要事項

施設設備の整備等

安全管理

平成 18 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

キャンパスマスタープランを制定し、これに基づいてキャンパス環境改善工事を実施している。

引き続き、共用スペース創出のため面積配分の目標値を定め、共同利用スペースの確保に努めており、新たに常三島共通講義棟 1 階に教育共用施設が整備されている。

安全管理の徹底を図るため、施設安全パトロールを実施するとともに、安全衛生スタッフの能力向上のため、講習会へ参加、安全衛生意義の啓蒙活動を行うほか、毒物・劇物についても管理の実態調査が行われている。

全学的・総合的な危機管理体制を整備するため、危機管理規則及び災害対策マニュアルが策定されている。

詳細な行動マニュアルを作成し、徳島県、徳島市消防署の協力を得て、南海地震を想定した防災訓練を実施し、学生も約 640 名が参加している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載 18 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### ・教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成 18 年度の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

勉学意欲向上のため、全学共通教育に成績優秀者表彰制度が導入されている。

教育の質を向上させるため、「学生が選んだ優れた授業」を公表した上で、教員等に

よる授業参観が実施されている。

教員がお互いの成績評価をフィードバックし、クラス間格差を是正することにより成績評価の信頼性と妥当性等を高めることを目的として、GPC（科目の履修者全員について GP を平均した値）について授業題目担当教員名入りで全教員に公表している。

外国連携 7 大学と複数学位を与える共同学位教育プログラムに関する協定を締結し、大学院教育の実施体制を整備し、外国連携大学の学生を 4 名受け入れている。

学生の自主創造プロジェクトでは、学部・学年等の枠を取り払った 13 の学生チームがそれぞれのテーマについて活動し、授業では得られない能力開発が行われている。

初年次オリエンテーションの充実を目指して、新入生全員が参加する「大学入門講座」（必修、1 単位）の合宿研修が実施されている。

各部署の評価システムに基づき、業績の顕著な教員に対し、業績手当や昇給に反映させるなど、評価システムの活用が図られている。

センター設置の計算機システムの有効活用を図るため、研究用計算機システムであるクラスタ型サーバを設置せず、大規模な計算需要には全国共同利用の計算機システム利用を勧め、一方で教育用システムの充実（教育用パソコンを対前年度比 174 台増加）が図られている。

研究の世界的拠点を目指す研究グループを育成するために設置したフロンティア研究センターに、中核講座のナノマテリアルテクノロジー講座（寄附講座）を設置し、独立行政法人情報通信研究機構等と共同研究プロジェクトが推進されている。

企業との共同研究契約数は平成 18 年度 192 件（対前年度比 33 件増）となっており、企業との共同研究が推進されている。

若手教員を支援し、研究の多様性を促進することを目的とする「徳島大学若手研究者学長表彰」制度が創設されている。

女性教員の環境を考えるワーキンググループを組織し、「女性研究者が働きやすい環境整備と意識改革に向けて」（中間まとめ）の提言を行い、女性教員の出産・育児及び介護の現状を支援するための研究環境の弾力的運用が図られている。

地域連携協定により那賀町に「徳島大学地域再生塾」を設置し、山間地域における人材育成に貢献し、地域の活性化を目指している。

県内の子ども達が科学実験等に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを体験できる「科学体験フェスティバル in 徳島」を開催し、展示や実験を工学部の技術職員が中心となって行われ、参加者数は、2 日間で延べ 8,000 名となっている。

大学院ソシオテクノサイエンス研究部では、研究成果を広く社会に公開するため、エンジニアリングフェスティバルを開催しており、若手教員の出展を優先させている。

#### （附属病院関係）

地域における医療人の育成をはじめ、地域と連携した取組に努力が見られ、卒後臨床研修センターの充実や看護師卒後教育の充実、地域医療人の生涯教育を推進するとともに、地域治験ネットワーク構築を推進している。また、がん診療の充実や安全管理の確保等医療サービス提供の改善を図っている。その他、事務部の再編成や経費節減等に努めている。

今後、後期研修医の教育体制の充実や診療の質向上に努めるとともに、経営分析や

戦略策定を着実に進めるなど、運営充実に向けた更なる取組が期待される。

#### 教育・研究面

- ・ 医科・歯科の卒後臨床研修を卒後臨床研修センターにおいて一元管理するとともに、後期研修において複数の診療科をローテーションできるプログラムを実現するなど、臨床研修の改善・充実に努めている。
- ・ キャリア開発支援システムによる地域の医療スタッフに対する地域生涯教育を推進している。
- ・ 治験の受入数増加や質的向上を目的とした地域治験ネットワークを構築している。

#### 診療面

- ・ がん診療連携センターを設置するとともに、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、がん診療の充実に努めている。
- ・ 安全管理教育への e-learning の導入等、医療事故防止に向けた取組を進めている。
- ・ 地域医療連携センターの充実により、地域医療連携の強化を図っている。

#### 運営面

- ・ 事務組織について見直しを図り、4課体制から3課体制へ再編成している。
- ・ SPD システム導入による経費削減等、病院運営の効率化を進めている。
- ・ 女性医師復職支援ワーキンググループを設置し、女性医師の復帰支援・確保対策に努めている。
- ・ 地域医療連携の強化により、平均在院日数の短縮が図られている。